

【 復活のトロパリ 第6調 】



てんしのぐんなんぢのはかにあらわれしに、  
天使軍爾墓現

ばんぺいしせしもののごとし、マリヤは墓  
番兵死者如

にたちて、なんぢのいさぎよきからだをたづね  
立爾潔體尋

たり。なんぢはぢごくにいざなわれず  
爾地獄誘

して、ぢごくをとりにし、いのちをた賜  
地獄虜生命賜

もうものとして、しょぢよにあいたまえり。  
者處女逢給

しよりふくかつせししゅよ、こうえいは  
死復活主光榮

なんぢにきす。  
爾歸

【 日本の亜使徒聖ニコライのトロパリ 第4調 】



しととひとしくどうざなるもの、ちゅう  
使徒等同座るもの、ちゅう

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい  
實神智ハリストスのえきしゃ、せい

なるしんにえられたるふえ、ハリストのあい  
神撰笛愛

に み ち た る う つ わ 、 わ が く に の こ う  
満 器 我 國 光

し ょ う し ゃ 、 あ し と し ゅ き ょ う せ い ニ コ ラ イ  
照 者 亜 使 徒 主 教 聖

よ 、 な ん ぢ の ぼ く ぐ ん の た め 、 お よ び  
爾 羊 群 爲 及

ぜん せ か い の た め に 、 い の ち を た も う せ い  
全 世 界 爲 生 命 賜 聖

さん しゃ に い の り た ま え 。  
三 者 祈 給

【 日本の亜使徒聖ニコライのコンダク 第4調 】

こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き  
光 榮 父 子 聖 神 歸

せ い せ い し ゃ あ し と せ い ニ コ ラ イ よ 、 わ が  
成 聖 者 亜 使 徒 聖 我

く に な ん ぢ を た び び と お よ び い ほ う じ ん と う け  
國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

し に 、 な ん ぢ は は じ め わ が く に に お い て お の  
爾 は 初 我 國 於 己

れ を が い ら い し ゃ と し り た れ ど も 、 ハ イ ス ト の  
外 來 者 知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて敵  
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことな爲し、かれらにか神  
属 神 子 爲 し 彼 等 神

みのおんちようをあたえ、ハリストのきょうかいをたて建  
恩 寵 與 教 會 建

たり、いまこのきょうかいのためにより祈  
今 此 教 會 爲 祈

たまえ、けだしわれらそのしよしはなん  
給 え 蓋 わ 我 等 其 諸 子 爾

ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
呼 ぶ 我 善 牧 者 慶

べよ。

【 復活のコンダク 第6調 】

いまもいつてもよよに、アミン。  
今 何 時 世 世 に ア ミ ン。

いのちのげんいたるハリストか神みはいのちを  
生 命 原 因 神 命 生 命

ほどこすてをもつてしせしものくらきた谷  
施 手 以 死 者 の 暗 谷

によりいだして、ふくかつをじんるいに  
出 だ し て 復 活 を 人 類 に

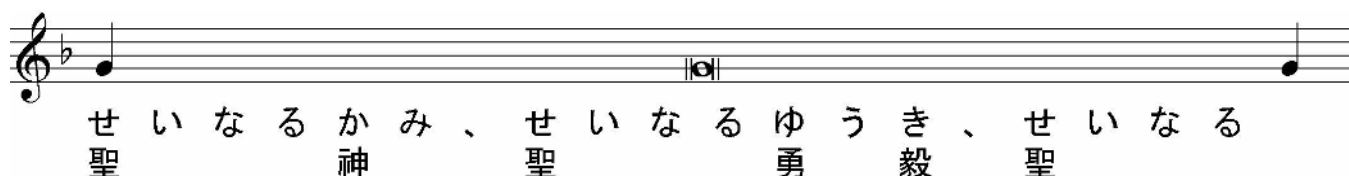


司祭) ( 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、  
 ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有  
 となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾  
 り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行ふ者を棄てずして、其救の爲に  
 痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が  
 聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる  
 もの者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の  
 仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈  
 と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖  
 なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世  
 に、



# 【 聖三祝文 】



じょう せいの ものよ、 われらを あわれめ  
常 生 者 我 等 憐

によ。 せいなる かみ、 せいなる ゆう き、 せい  
聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょう せいの ものよ、 われらを あわれ  
常 生 者 我 等 憐

め よ。 せいなる かみ、 せいなる ゆう き、  
聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょう せいの ものよ、 われらを あわれ  
常 生 者 我 等 憐

れ め よ。 こう えい は ち ち と こ と せい しん  
光 榮 父 子 聖 神

に き す、 い ま も い つ も よ よ せ に、 ア ミ ン。  
歸 今 何 時 世 世

せいなるじょう せいの ものよ、 われらを あわれ  
常 生 者 我 等 憐

れ め よ。 せいなる かみ、 せいなる ゆう  
聖 神 聖 勇

き、 せいなるじょう せいの ものよ、 われらを  
毅 聖 常 生 者 我 等 憐

あわれ め よ。

司祭) ( 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、 )

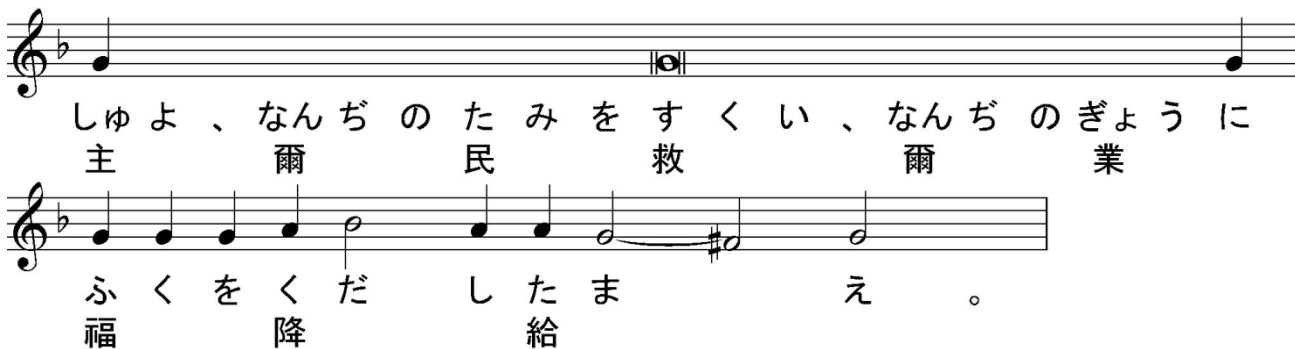
【 プロキメン 提綱 主日第6調 】

司祭) つつし 慎みて聴くべし、<sup>き</sup>衆人<sup>しゅうじん</sup>に平安<sup>へいあん</sup>、

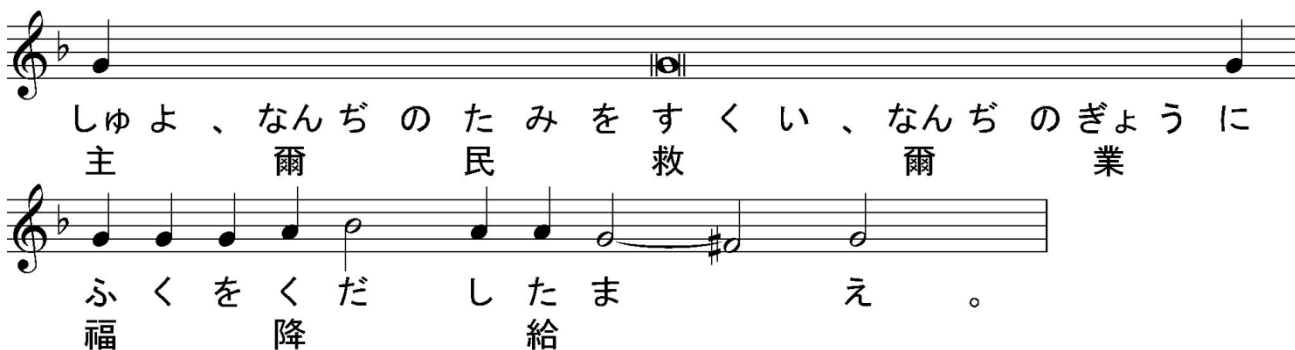
誦經) なんぢ 爾の神<sup>しん</sup>にも、

司祭) えいち 睿智、

誦經) プロキメン、主よ、<sup>しゅ</sup>爾の民<sup>なんぢ たみ</sup>を救<sup>すく</sup>い、<sup>なんぢ</sup>爾の業<sup>ぎょう</sup>に福<sup>ふく</sup>を降<sup>くだ</sup>し給<sup>たま</sup>え、



誦經) <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>われなんぢ</sup>我爾に呼ぶ、<sup>よ</sup>我の防固よ、<sup>われ</sup>我が爲に黙<sup>かため</sup>す母れ、<sup>わ</sup> <sup>ため</sup> <sup>もだ</sup> <sup>なか</sup>



誦經) <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>なんぢ</sup>爾の民<sup>たみ</sup>を救<sup>すく</sup>い、



【 アポストロス 使徒經 220 端 エフェス書2章4節～10節 】

司祭) えいち 睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup>聖使徒<sup>じん</sup>パウエルがエフェス人<sup>たつ</sup>に達<sup>しよ</sup>する書<sup>よみ</sup>の讀、

司祭) つつし 謹みて聴くべし、

誦經) <sup>けいてい</sup>兄弟よ、<sup>あわれみ</sup>矜恤に富める神<sup>と</sup>は、<sup>かみ</sup>其我等<sup>そのわれら</sup>を愛する<sup>あい</sup>大なる愛<sup>おお</sup>に縁<sup>あい</sup>りて、<sup>われらつみ</sup>我等罪<sup>よ</sup>に由<sup>し</sup>りて死

<sup>もの</sup>せし者<sup>とも</sup>をハリストスと偕に生かせり、<sup>い</sup>爾等恩<sup>なんぢらおんちよう</sup>寵<sup>もつ</sup>を以て救<sup>すく</sup>われたり、<sup>かれ</sup>彼と偕に復<sup>とも</sup>活<sup>ふく</sup>せし

め、<sup>あ</sup>ハリストス・イイススに在りて天<sup>てん</sup>に坐せしめたり、<sup>ざ</sup>未<sup>みらい</sup>來の世<sup>よ</sup>に於て、<sup>おい</sup>其<sup>その</sup>ハリストス・イイ

<sup>あ</sup> <sup>われら</sup> <sup>ほどこ</sup> <sup>じんじ</sup> <sup>もつ</sup> <sup>おんちよう</sup> <sup>あふ</sup> <sup>とみ</sup> <sup>しめ</sup> <sup>ため</sup> <sup>けだしなんぢ</sup>  
 スに在りて我等に 施 しし 仁慈を以て、恩 寵 の溢れたる富を示さん爲なり。蓋 爾  
<sup>ら</sup> <sup>おんちよう</sup> <sup>もつ</sup> <sup>しん</sup> <sup>よ</sup> <sup>すく</sup> <sup>こ</sup> <sup>なんぢら</sup> <sup>よ</sup> <sup>あら</sup> <sup>かみ</sup> <sup>たまもの</sup> <sup>おこない</sup>  
 等は恩 寵 を以て信に由りて救われたり、是れ 爾 等に由るに非ず、神の 賜 なり、行  
<sup>よ</sup> <sup>あら</sup> <sup>ひと</sup> <sup>ほこ</sup> <sup>ため</sup> <sup>けだしわれら</sup> <sup>かれ</sup> <sup>つく</sup> <sup>もの</sup>  
 に由るに非ず、人の 誇る ことなからん爲なり。蓋 我等は彼の造りし者にして、ハリスト  
<sup>あ</sup> <sup>よ</sup> <sup>わざ</sup> <sup>ため</sup> <sup>つく</sup> <sup>すなわちかみ</sup> <sup>われら</sup> <sup>おこな</sup> <sup>ため</sup> <sup>あらかじ</sup>  
 ス・イイスに在りて善き功の爲に造られたり、 即 神が我等の 行 わん爲に、 預 め  
<sup>そな</sup> <sup>ところ</sup>  
 備えし 所 なり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をも  
 って、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし——あなたがたの救われたのは、  
 恵みによるのである——キリスト・イエスにあつて、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さ  
 ったのである。それは、キリスト・イエスにあつてわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な  
 富を、きたるべき世々に示すためであった。あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によ  
 るのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるの  
 ではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。わたしたちは神の作品であつて、良い行い  
 をするように、キリスト・イエスにあつて造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を  
 過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。

\*\*\*\*\*

# 【 アリルイヤ 主日第4調 】

司祭) <sup>なんぢ</sup> <sup>へいあん</sup>  
 爾 に平 安、

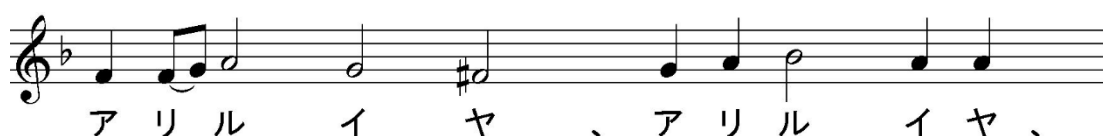
誦經) <sup>なんぢ</sup> <sup>しん</sup>  
 爾 の神にも、

司祭) <sup>えいち</sup>  
 睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) <sup>かみ</sup> <sup>なんぢ</sup> <sup>ほうざ</sup> <sup>よよ</sup> <sup>あ</sup> <sup>なんぢ</sup> <sup>くに</sup> <sup>けんべい</sup> <sup>せいちよく</sup> <sup>けんべい</sup>  
 神よ、 爾 の寶座は世世に在り、 爾 の國の權 柄は正 直 の權 柄なり、





誦經) なんぢ ぎ あい ふほう にく  
爾 は義を愛し、不法を惡めり、



司祭) ( 黙誦: ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん  
人 を愛する主 宰よ、我が 心 に神を知る智慧の 淨 き 光 を 輝 かし、我が思念

め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ  
の目を啓きて、爾 が福 音の 教 を悟らしめ給え、我が衷に 爾 の福たる 誠 を

おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ  
畏るる 畏 をも入れて、我等が 悉 くの肉 體の慾を踏み、凡そ 爾 の 喜 ぶ 所

おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ  
を思い且つ 行 いて、屬 神の 生 活を過ぐるを致させ給え、 蓋 ハリストス神よ、

なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん  
爾 は我が 靈 と 體 との 光 照 なり、我等 爾 と 爾 の無原の父と至聖至善にし

いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ  
て生命を 施 す 爾 の神とに光 榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 )

【 エヴァンゲリオン  
福 音 經 ルカ福音書 39 端 8 章 41～56 節 】

司祭) えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん  
睿智、肅 みて立て聖 福 音 經を聴くべし、衆 人 に平 安、



司祭) でん せいふくいんけい よみ  
ルカ傳の聖 福 音 經の讀、



司祭) つつし き か とき な ひと かいどう つかさ もの きた  
謹 みて聴くべし、彼の 時 イァイルと名づくる人にして、會 堂の 宰 たる者、來りてイイ

そくか ふふく そのいえ い もと けだしかれ ひとり むすめ としおよそじゅうに  
ススの足下に俯伏し、其 家に入らんことを求めたり、 蓋 彼に 獨 の 女 、年 約 十二


の者ありて、今死せんとせり。彼が行く時、民之に擁し逼れり。十二年血漏を患うる  
 婦、醫師の爲に其悉くの所有を費したれども、一人にも痊さるるを得ざりし者は、  
 後より就きて、彼の衣の裾に捫りしに、其血漏直に止れり。イイスス曰えり、誰か  
 我に捫りたる。衆の認めざる時、ペトル及び彼と偕に在りし者曰えり、夫子、民爾  
 を繞りて擁し逼るに、爾は誰か我に捫りたると謂うか。然れどもイイスス曰えり、我に捫  
 りし者あり、蓋我能の我より出でしを覺えたり。婦は自ら隠す能わざるを見て、  
 戦きて來り、彼の前に俯伏して、彼に捫りし故、又如何にして立に愈されしを、  
 彼に衆民の前に告げたり。彼は之に謂えり、女よ、心を安んぜよ、爾の信は爾  
 を救えり、安然として往け。彼が尚言う時、會堂の宰の家より人來りて曰く、爾  
 の女已に死せり、師を煩わす勿れ。イイスス之を聞きて、宰に答えて曰えり、懼るる  
 勿れ、惟信ぜよ、彼は救われん。家に來りて、ペトル、イオアン、イアコフ、及び少女  
 の父母の外、誰にも入ることを許さざりき。衆人爲に哭き哀めるに、彼曰えり、哭く勿  
 れ、彼は死せしに非ず、乃寝ぬるなり。人人其死せしを知りて、彼を晒えり。彼衆  
 を外に出して、其手を執りて、呼びて曰えり、少女、起きよ。其神返りて、直に起きた  
 り、彼は之に食を與えんことを命ぜり。其父母駭きたり、イイスス彼等に戒めて、行  
 われし事を人に告ぐる勿らしめたり。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) その時、そこに、ヤイロという名の人がきた。この人は会堂司であつた。イエスの  
 足もとにひれ伏して、自分の家においてくださるようにと、しきりに願つた。彼に十二歳ばかりになる  
 ひとり娘があつたが、死にかけていた。ところが、イエスが出て行かれる途中、群衆が押し迫つてきた。  
 ここに、十二年間も長血をわずらつていて、医者のために自分の身代をみな使い果してしまつたが、だ  
 れにもなおしてもらえなかつた女がいた。この女がうしろから近寄つてみ衣のふさにさわつたところ、  
 その長血がたちまち止まつてしまつた。イエスは言われた、「わたしにさわつたのは、だれか」。人々は  
 みな自分ではないと言つたので、ペテロが「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているの  
 です」と答えた。しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわつた。力がわたしから出て行つたの  
 を感じたのだ」。女は隠しきれないのを知つて、震えながら進み出て、みまゑにひれ伏し、イエスにさわ  
 った訳と、さわるとたちまちなおつたこととを、みんなの前で話した。そこでイエスが女に言われた、  
 「娘よ、あなたの信仰があなたを救つたのです。安心して行きなさい」。イエスがまだ話しておられるう  
 ちに、会堂司の家から人がきて、「お嬢さんはなくなられました。この上、先生を煩わすには及びません」  
 と言つた。しかしイエスはこれを聞いて会堂司にむかつて言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい。  
 娘は助かるのだ」。それから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほ

かは、だれも一緒にはいって来ることをお許しにならなかった。人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」。人々は娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。イエスは娘の手を取って、呼びかけて言われた、「娘よ、起きなさい」。するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。イエスは何か食べ物を与えるように、さしずをされた。両親は驚いてしまった。イエスはこの出来事をだれにも話さないようにと、彼らに命じられた。

\*\*\*\*\*



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 光 榮

はなんぢにきす。  
爾 歸

※ 聖体礼儀③（金ロイオアン）へ